

図書館だより



1.2月合併号



令和8年1月9日
 港区立青山中学校
 校長 佐々木希久子
 学校図書館司書 三島裕美
 学校図書館支援員 武田優子
 桑畑恵美
 小川順子

2026年になりました。図書館には、小説だけでなく勉強のノウハウが書かれた本、音楽や歌舞伎について解説された本など、たくさんの仲間が増えました。読みたい本を探すのも、静かに本を読んで過ごすのも大歓迎です。もちろん、自習の場としての利用もしっかり応援します。2026年も、図書館が皆さんの気持ちに寄り添える場所になるよう、スタッフ一同頑張ります！

冬休み特別貸し出しの返却日は

1月16日(金)です。忘れずに返却してください。

<1月の特集展示>

『サバイバル』



今月は、心も身体も冬の寒さに負けないパワーをつけてもらえるような本を展示してみました。

2026年も皆さんが健やかに笑顔で中学生を送れることを願っています。



<今月の“調べてみた！”>

お正月休暇で海外から帰国した友人に会うと皆「卵かけご飯が恋しかった」と言います。海外ではサルモネラ菌による食中毒の恐れがあり、卵を生で食べることができません。日本で買える卵は生でも食べられるよう厳重な安全管理(殺菌等)がされています。日本と同様に管理された卵が買えるのは「タイ」だけで、日本とタイの企業が現地生産しています。卵の輸出や他国への持ち込みは禁止です。海外では卵=過熱して食べるべき食材という認識ですが、日本を訪れた外国人には焼き焼きの卵やさまざまな料理の卵黄トッピングなども好評です。こうして食文化は変化していくのかもしれない。

参考文献

<https://akaragroup.co.th/akara/en/product/mori-tama/> 2025年12月11日参照

『スーパーの食材でつくる世界の卵料理』青木敦子著/双葉社
 『旬の食材別巻 肉・卵図鑑』講談社編/講談社



高校入試全力応援！！

高校入試 過去8年分出题作品をまとめました！
 勉強の合間に、気になる本を読んでみましょう。

年度	出題作品
2025年度	にしがきようこ 『アオナギの巣立つ森では』小峰書店
2025年度後期	君嶋彼方 『春のほとりて』講談社
2024年度	辻村深月 『この夏の星を見る』KADOKAWA *
2024年度後期	喜多川泰 『あおとがよろしいようで』幻冬舎
2023年度	清水晴木 『旅立ちの日に』中央公論新社
2023年度後期	河邊徹 『螢と月の真ん中で』ポプラ社
2022年度	村山由香 『雪のなまえ』徳間書店 *
2022年度後期	青山美智子 『赤と青とエスキース』PHP研究所 *
2021年度	伊吹有喜 『雲を紡ぐ』文芸春秋
2021年度後期	天沢夏月 『17歳のラリー』KADOKAWA
2020年度	瀬那和章 『わたしたち、何者にもなれなかった』KADOKAWA
2020年度後期	片川優子 『動物学空手道部！1年高田トモ！』双葉社 *
2019年度	三浦哲郎 『燈火』幻戯書房
2019年度後期	馳星周 『雨降る森の犬』集英社
2018年度	加藤ジャンプ他 『小辞譚〜辞書をめぐる10の掌編小説〜』猿江商會より 澤西祐典 『辞書に描かれたもの』
2018年度後期	加藤千恵 『ラジオラジオラジオ！』河出書房新社

* 青中図書館蔵書

青中図書館恒例 図書館リサイクル祭り を開催します！



実施日:2月5日(木)~2月13日(金)

実施場所:青山中学校図書館内

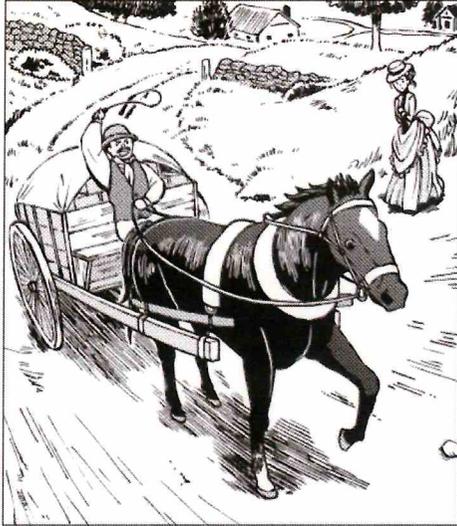
リサイクルコーナーの本は自由に持ち帰ることができます。
 皆さん、図書館に来てください！



名作まちがいがし

「黒馬物語」

アンナ・シューウェル



ビューティーは、荷馬車を引いて坂道を上る途中で、動けなくなりました。怒った御者にむちで打たれていると、通りがかった婦人が、荷物が重すぎることや、馬が楽になるように手綱をつけるよう、御者に助言してくれました。下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。

激ムズポイントのヒント：木の位置

作品の概要・解説

一九世紀後半のイギリスを舞台に、黒い毛並みの美しい馬のブランク・ビューティーが半生を振り返る、自伝的な長編小説です。ビューティーは、幼少期に優しい牧場主の調教を受け、裕福な一家の馬車馬や乗用馬になって、楽しく暮らしていました。しかし、一家の都合で伯爵家に売られて傷を負い、その後も辻馬車屋など、馬の扱いや愛情もさまざまな人たちの手に渡って、働き続けることになりました。当時は、馬が交通や荷物の運搬などを担っていて、生活に欠か

せませんでした。本書はビューティーの一人称で、仕事の様子、人間から虐待や親切にされた出来事が語られています。馬が身近ではない現代人でも、リアルな描写で共感しやすい話です。作者のアンナ・シューウェル（一八二〇〜一八七八年）の唯一の著作で、彼女が一〇代で兩足が不自由になり、移動を馬車に頼る生活の中で馬に親しんだことが、執筆の背景にあります。また、この本がベストセラーになったことで、近代社会における馬の扱いが改善されるきっかけになったといわれています。

※『黒馬物語』は岩波書店や光文社、メトロポリタンプレスなどから発行されています。



一・二月のおすすめ本



『スーパーの食材で作る 世界の卵料理』 596/A
青木敦子/著(双葉社)



皆さんは卵料理を作ったことがありますか？初めてひとりで作った料理は目玉焼き！なんていう人もいるのでは？この本は、おもて面「調べてみた！」の参考文献です。著者が世界で食べ歩いて集めた卵料理のレシピのほか、卵に関する科学的な知識のページもあります。世界を旅した気分です。身近な卵への興味も深まる一冊です。（武田）

『5分後に思わず涙。青い星の小さな出来事』 913/ゴ
桃戸ハル/編著 (Gakken)

過去3年



みんなはどんな本を読んでいるのかな？そう思って過去3年間、青山中学校図書館で一番読まれた本を調べたところ、この本が一番読まれていました。『5分後』シリーズはたくさん出ていますが、この本が読まれたのは、うれし泣きや悔し泣き、いろいろなシーンの涙が読む人の共感を呼ぶからだと思います。青中で人気の1冊。きっと皆さんも気に入ると思います。ぜひ、手に取ってみてください。（三島）

『スピノザの診察室』 913/ナ
夏川草介/著(水鈴社)



主人公の雄町哲郎は、大学病院で将来を約束された凄腕の医師でしたが、妹の死後ひとりになってしまった甥と暮らすために京都の地域病院に赴きます。患者一人ひとりに向き合い、哲学者スピノザの「すべてが決まっているからこそ努力が必要」という考えに支えられ、静かに希望を届ける姿が胸に響きます。生き方や死について考えさせられる一冊です。（小川）

『クマはなぜ人里に出てきたのか』 489/ナ
永幡嘉之(旬報社)



12月の新着図書です。近年、ニュースでクマの人里への出没が報じられ、被害や人身事故が急増しています。クマの大量出没はなぜ起こったのか？著者が現地取材し、様々な角度から検証し、クマと人との関係を読み解いています。著者が撮影したたくさんの写真も見ごたえがあります。（桑畑）